

【3】バブル体験世代と消費

世代の定義と特徴

中長期の消費トレンドを生み出してきた「世代」に着目する。

「世代」の定義には、年代の区切りという生物学的な定義と、感受性の強い若年期における歴史的共通体験を背景にした歴史社会的定義とがある。ここでは戦争とそれに次ぐ大きな歴史的共通体験としてバブル体験の有無に着目して、世代を定義している。

世代区分と特徴を整理したのが下図である。戦中の飢餓体験を持つ「飢餓世代」とその後の戦後復興期に成長した「戦後世代」「団塊世代」は、直接間接に戦争という時代の影響を強く受けた世代である。「断層世代」は、高度経済成長期に育ち消費経済の拡大を体験した。高度成長が頭打ちとなり消費の個人化・多様化の中で育ったのが「新人類」であり、「団塊ジュニア」以降その傾向はより一層強まっていく。「断層ジュニア」にあたる世代は、バブル体験の時期によって「ポストバブル」「エイティーズ」に区分される。1980年以降生まれの「エイティーズ」は、ブロードバンド環境の進展とともに育った世代である。「新人類ジュニア」は、新人類を親に持つ世代である。

図表1 - 10. 世代の定義と特徴

世代の定義		生年、成長時期などの近いもの同士をまとめるようにした年代の区切り(約20年スパンの生物学的定義)			
		感受性の強い若年期における歴史的共通体験を背景にして形成されるもの(歴史社会的定義)			
世代区分	生年、年齢	人口規模*	特徴		芸能人・スポーツ選手・政治家など
新人類ジュニア	1986～95年生 10～19歳	1,260万人* (9.9%)	新人類の子供にあたる。少子化の中で育ち、財布の数が多(両親・祖父母の「6ポケット」)。構造改革、イラク戦争。	↑ バブル後世代	松浦亜弥(86) SAYAKA(86) 福原愛(88)
断層ジュニア	エイティーズ	1980～85年生 20～25歳	断層世代の子供にあたり、幼年のためバブルの記憶がほとんどない。学生時代からインターネット、モバイルを使いこなす。ITバブル、世紀末、デフレ不況、ギャングロ。		松坂大輔(80) 金原ひとみ(83) 北島 康介(82) 綿矢りさ(84) 滝沢秀明(82) 上戸彩(85) 宇多田ヒカル(83) 宮里藍(85)
	ポストバブル	1976～79年生 26～29歳	断層世代の子供にあたり、バブル期に少年期を過ごし、バブル崩壊後の不況期に成人した。阪神大震災、地下鉄サリン事件。		香取慎吾(77) 井上康生(78) 安室奈美恵(77) Kinki Kids(79) 中田 英寿(77) 小野伸二(79) 浜崎あゆみ(78) 小室(76)
団塊ジュニア	1971～75年生 30～34歳	980万人 (7.7%)	団塊世代の子供にあたり、モノや情報が豊富な中で育つ。父親との敵対関係から継承関係に転換。Jリーグ発足。地味婚、ナイキ。	↑ バブル体験世代	くりむしちゅー(71) イチロー(73) ナインティナイン(71) 松井秀喜(74) 木村拓哉(72) 谷亮子(75) 若乃花、貴乃花(72) 堀江貴文(72)
新人類	1961～70年生 35～44歳	1,690万人 (13.2%)	消費の個人化、差別化が進む。青春期にバブルを体験。最初のメディア消費世代。インポートブランドブーム、共通一次。ポパイ、ホットドック。		松田聖子(62) 森高千里(69) 中森明菜(65) 三浦知良(67) とんねるず(61) 野茂英雄(68) ダウンタウン(63) 三木谷浩史(65)
断層世代	1951～60年生 45～54歳	1,660万人 (13.0%)	団塊と新人類にはさまれた元祖オタク世代。高度経済成長期に育つ。経済世代。大阪万博、オイルショック、カラオケブーム。	↑ 戦争世代	キャンディーズ(55) 明石家さんま(55) 桑田佳祐(56) 桃井かおり(52) ピンクレディー(57) 安倍晋三(54) 山口百恵(59) 林真理子(54)
団塊世代	1946～50年生 55～59歳	1,028万人 (8.0%)	大正から昭和一ケタ生まれの親のもと、戦後復興とともに成長する。大学紛争など政治世代。東京オリンピック。鉄腕アトム。		西川きよし(46) ビートたけし(47) 吉田拓郎(46) 志村けん(50) 西田敏行(47) 和田アキ子(50) 都はるみ(48) 村上春樹(49)
戦後世代	1939～45年生 60～66歳	1,150万人 (9.0%)	幼年期に終戦を迎え、戦争体験を記憶に持つ。「60年安保」を生んだ世代。野球と相撲(巨人、大鵬)。	↑ 戦争世代	桂三枝(43) 徳光和夫(41) 加藤茶(43) みのもんた(44) タモリ(45) 小泉純一郎(42) 吉永小百合(45)
飢餓世代	1938年生まで	600万人 (4.7%)	戦時期に育ち日本へのこだわりを強く持つ。両親の多くが明治生まれ。兄弟が多い。		石原裕次郎(34) 美空ひばり(37) いかりや長介(31)

* 総務省「国勢調査」(平成16年)をもとに作成。かっこ内は全人口1億2,770万人に対する比率。注)今回調査では、新人類ジュニアは15～19歳、飢餓世代は67～69歳が対象者である。

【3】バブル体験世代と消費

バブル・トラウマを負った「団塊世代」家族層

「世代交代」の観点からバブル経済のピーク以降の経済動向を整理すると、団塊世代と団塊ジュニアで構成される「団塊世代」家族層が、“バブルの天井と底”双方の記憶を強烈に抱いた存在だったことがわかる。

バブル経済のピークでは、親世代の団塊世代は、所得や資産に対する楽観的成長期待をもとに、“高くて遠くて狭い”物件をローン限度枠まで借り入れて購入した。「団塊世代」家族層は、豊かな消費を核家族で実感した初めての存在でもあった。

バブル経済の崩壊後、物件の担保価値が下落し同時に住宅ローン返済負担が増大した。金融パニック発生期には、団塊の世代はリストラ・賃下げに直面した。子世代の団塊ジュニアは、教育費負担が重くなる中で親世代の困難を目にし、自らも就職氷河期を体験した。

「団塊世代」家族層にとって、バブル崩壊後の1990年代は“バブル・トラウマ”を背負った苦難の時代であったといえる。

図表1 - 11. 世代別のバブル体験状況

	バブル経済 ピーク (1989年)	バブル経済 崩壊 (1992年)	金融パニック発生 (1997年)	2005年現在
経済動向(1) :全般状況	・株値ピーク:日経平均4万円目前 ・経済成長率は5%越え	・地価バブル崩壊へ ・成長率も一時的に大幅低下	・経済低迷 ・企業倒産の増加、大規模化 ・リストラ本格化	・経済状況良好、雇用環境好転 ・株値上昇 ・インフレ基調へ
経済動向(2) :住宅取得関連	・止まらない金利上昇・地価上昇 ・“高くて遠くて狭い”物件に殺到 ・住宅金融公庫で枠一杯まで借入して住宅を購入	・金利も地価とともに、一転して下落基調へ ・入手した住宅の担保価値も下落を免れず	・超低金利時代 ・ローン段階金利上昇やゆとり返済での返済負担の増加などに直面 ・住宅ローンの借換えも本格化	・金利・地価上昇へ ・住宅金融公庫は廃止の方向へ ・住宅取得も都心回帰の傾向
経済動向(3) :教育支出関連	・大学受験競争加熱 ・“日東駒専”から“大東亜帝国”へ ・多数校併願で増える受験料負担	・団塊ジュニアの大学受験本格化 ・「共通一次」時代から「大学入試センター試験」時代へ ・水ぶくれする大学定員	・団塊ジュニア層大学受験がピーク越え ・少子化により“大学全入時代”の兆し	・大学全入時代へ ・少子化で進む大学の淘汰、選別
新人類ジュニア				高校生期
エイティーズ				大学生・短大生・独身社会人
ポストバブル			大学生・短大生・独身社会人	独身社会人
団塊ジュニア		高校生・大学生・短大生・独身社会人	独身社会人	結婚・家庭形成・持ち家取得
新人類		独身社会人	結婚・家庭形成・持ち家取得	戸建取得・教育資金形成
断層世代	結婚・家庭形成	持ち家取得 担保価値 大幅下落	戸建取得・教育資金形成 担保価値低迷・返済負担増大	教育資金形成
団塊世代	持ち家取得 物件価格高騰・高値つかみしてしまう	戸建取得・教育資金形成 担保価値大幅下落・住宅買換に誤算	リストラ・賃下げ・教育資金難 担保価値低迷・返済負担増大	ローン完済へ・老後資金準備形成
戦後世代	戸建取得・教育資金形成 物件価格高騰を利用し住宅買換成功	教育資金形成	ローン完済・老後資金準備形成	定年退職・老後生活